［認知症対応型共同生活介護用］

1. 評価結果概要表

作成日　平成21年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	３７７１７００７４
法人名	有限会社オバタ
事業所名	グループホーム高瀬
所在地	香川県三豊市高瀬町新名１４７６－１ （電　話）0875－72－3945

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成２１年６月２６日	評価決定日	平成２１年８月７日

【情報提供票より】（21年5月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・平成　14年　5月　6日	
ユニット数	2ユニット	利用定員数計　18人
職員数	20人	常勤　10人，非常勤　10人，常勤換算　13．5人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建の1階～2階部分

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30，000円	その他の経費（月額）	16，500円
敷　金	有（　円）	無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　円） 無	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　250円	昼食	550円
	夕食　550円	おやつ	100円
	または1日当たり　円		

（4）利用者の概要（　6月26日現在）

利用者人数	17名	男性　2名	女性　15名
要介護1	3名	要介護2	8名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	1名	要支援2	0名
年齢　平均	85．6歳	最低　72歳	最高　94歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	三豊市西香川病院　岡部医院　つづき歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鉄骨造りの二階建てホームは、のどかな田園風景の中に自然な形で溶け込み誰もが気軽に訪問できる佇まいになっている。利用者は、職員と共に川の土手を日常的に散歩し、季節ごとの自然の風景や時折通過する電車に以前の記憶を蘇らせたり、近隣の方たちとも挨拶するなど地域交流も図れている。また、散歩に行けない利用者は散歩の様子をベランダから眺めて一体感の持てる配慮と共に、作業療法士の指導により、負荷付足上げ体操を行うことで脚力の維持・向上にも取り組んでいる。職員は、利用者の誇りを具現化するために、一人ひとりの名前を呼んで挨拶・声かけをしたり、4文字熟語のゲームで脳トレするなど、ホームの理念である「憩いと安らぎ、そして笑い声」の実践が随所に盛り込まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

前回評価の課題であった「運営推進会議の開催回数を2カ月に1回の実施」の取り組みは、先月6カ月ぶりの開催となるなど改善できていない。管理者は、対外的な要職についていることもあり、日程調整が難しい実情にある。利用者のサービス向上を図る観点からも地域・行政の方々との運営推進会議は重要である。再度、改善に向けた取り組みが望まれる。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

自己評価項目を運営管理者、管理者、ケアマネジャー等一部の職員が項目別に検討した結果を運営管理者がまとめ、ファイルにしている。今後は、まとめたものを職員会議で全職員に公表し、自己評価に職員の意見を反映させることを期待したい。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

先月、6カ月ぶりに運営推進会議が開催されている。内容は、グループホーム利用者の現状報告、介護保険料改定についての内容報告、利用者家族のケース報告・検討などがなされている。ケース報告については、早期に話し合いの場を持ち、色々な事例を持っている市の担当者に相談すべき等の意見が出され、早速、活用に向けた取り組みの方法を検討している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

2カ月に一度カラー刷りの「グループホーム高瀬だより」を作成し、利用者の暮らしぶりや景勝地に出掛けた際のスナップ写真を載せて家族に送っている。職員は、名札をつけ、自然な形で異動が分かるようにしている。家族は、ホームに設置している苦情箱の利用や外部への苦情は一度も利用したことがなく職員に直接、意見・苦情を言いやすい雰囲気がある。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

昨年末の餅つき大会は、婦人会の方に手伝いに来てもらったり、時々、近隣農家の方が季節の野菜を届けてくれたり、日常的な散歩で自然に利用者と地域の方と交流がある。今後は、保育所、幼稚園などにも働きかけ、利用者の笑顔や笑い声が自然にみられる機会を増やす努力も期待したい。

2.　評 価 結 果（詳細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「憩いと安らぎ、そして笑い声」を事業所独自のサービス理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を共有し　利用者の誇りを具現化するために、常に寄り添い、「○○さん」と、名前で話しかける配慮で、暖かな人間関係を構築し、理念の実践に日々取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年末には餅つき大会に婦人会の手伝いがあったり、利用者と職員の日々の散歩で地域の方との交流がある。運営管理者は地元出身であり、地域とのパイプは太く、今年も氏神さんの祭りの地区大頭屋の総代を務める等、自治会活動に積極的に取り組んでいる。	○	今後は、定期的に保育所、幼稚園児の訪問・交流を図る為、事業所からの働きかけが進めば、利用者の笑顔や笑い声が一層高まると思われる。
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今年度新規採用職員が多く、一部の職員と管理者が自己評価表を検討し、運営管理者がまとめたものを、ファイリングして職員室においている。	○	今後は、管理者がまとめた自己評価表をファイリングする前に最終的に全職員の意見が自己評価に反映されるよう、職員会議に提出するなどの工夫が望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は5月に初めて開催されている。運営管理者は、対外的な活動の要請を受け多忙を極める中で開催時期がずれていく実状にある。	○	前回外部評価の指摘事項にもなっていたが、今後も2カ月に1回の開催の実現を期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出向いた際、利用者の家族に送る収支明細書に領収証を添付していることを話したところ、市・担当者より今後は領収証のコピーをグループホームに残しておくよう助言があり、証拠書類としての重要性が認識されるなど、市役所と共に利用者のサービス向上に取り組んでいる。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2カ月に一度利用者の写真入りで「グループホーム高瀬だより」を発行し、家族の方に送っている。職員の異動については、全職員がネームをつけていて自然な形で分かるようにしている。	○	今後は、顔写真入りの職員紹介表を玄関に張るなど、家族の方に分かりやすい工夫を取り入れることを期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関横に苦情箱を設置したり、外部者へ相談フローを玄関の掲示板に張り出しているが、これまで一度も苦情箱・外部相談を利用していない。苦情等は直接職員に訴えてくるなど、職員に言いやすい雰囲気がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は離職者を出来るだけ出さないよう努力しているが、職員の定着率は低い。また、職員の就業形態から単一ユニットでの担当制をとりにくく、2ユニット間を行き来している関係からか、親密さに欠ける様子がうかがえる。	○	シフト表作成の難しさはあるが、利用者の情緒面を考慮し、馴染みの管理者や職員による支援を受けられるよう出来れば単一ユニット毎の処遇の実施が望まれる。
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、経験年数に応じて、管理者研修会、認知症の学習会に参加している。運営者は、外部の研修会に積極的に参加させる機会を設けて職員を育てる取り組みを行っている。また、作業療法士を招いての内部研修にも取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、グループホーム協議会に所属している3グループホームが相互に訪問し合い、客観的立場で評価を行う取り組みをしている。当ホームの個室入口にかけられた様々な色・デザインの暖簾は、他グループホームのアイディアを取り入れていたり、しっかりした木製の当ホーム表札は、他グループホームの手本となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	以前は、サービス開始前に職員や他の利用者、場の雰囲気に馴染めるよう事前の見学を行っていたが、最近は利用待ちの状態が続いていて、即サービス利用になっている。	○	サービス利用者は、一回一回違う利用者であり、サービス利用開始に対する不安があることを踏まえ、少なくともサービス利用開始前に1～2回の見学を行うことが望まれる。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者本人は、日本のことわざをよく覚えていたり、詩吟を朗読したり、紙芝居の色塗りをした後、他の利用者の前でも上手に読んだりしている。職員は、常に利用者本人と一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	管理者、職員が一丸となって、一人ひとりの想いや意向を把握し、1週間に1度は利用者の希望のメニューで食事作りしている。その他、掃除、畑の野菜の収穫と、利用者それぞれの暮らし方の希望を取り入れる工夫が行われている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしの中で利用者の意見を聴き、家族からは、毎月の利用料支払い時に意見を聴いた上で、管理者、ケアマネジャーを中心に介護計画を作成している。	○	介護計画作成の為に家族からの意見聴取を確実に行うとともに、関係者全員で利用者・家族の意見を反映させた利用者本位の介護計画作成が望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、3カ月に一度の見直しを行い、変化があれば本人と家族の意見を聴きながら、新たに計画の見直しを行っている。	○	特に変化がない場合でも毎回新鮮な目で計画を見直す取り組みが望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人と家族にとっての多機能性となる、病院への通院、リハビリへの通いなど、家族の代行が十分なされている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携をとり適切な医療を受けたり、定期的に健康診断を受けている。また、本人、家族の希望により必要に応じて医師の訪問診療も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームは、本人・家族の意向によりこれまで二人の看取りを行ってきた実績がある。看取り近くになられた方は、医師にも参加してもらい、家族と打ち合わせをしている。	○	今後は、看取りについて出来るだけ早い段階での本人・家族との話し合いが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、丁寧な言葉かけで対応している。また、記録はホームで行い、ホーム外への持ち出し禁止を徹底している。ただ、廊下から利用者の排泄の様子が見える状態になっている。	○	今後は、利用者一人ひとりのプライバシーを尊重するための工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物や食事の手伝い等は、利用者の希望や理解の程度に合わせて職員が声かけし、利用者が納得した形で職員と一緒に行う支援をしている。また、利用者のその時々の気分に合わせて、少し時間を置いたり、職員が行ったりして柔軟に対応している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら豆の皮むき、牛蒡の笹がき、配膳、片づけなどを手伝ってもらっている。食事中は静かな雰囲気で、職員と共に食事をしている。また、週に一度は、利用者の方が中心になり、職員に手伝ってもらいながらお好み焼きなど好みのメニューで食事作りを楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日時は、ある程度決められているが、順番は利用者の状態を見ながら声かけし希望に合わせている。また、入浴することを不安がったり怖がったりする場合は、おやつを先にして気分転換を図ったり、好みの職員に誘導してもらったりと、利用者の気持ちを重視した支援を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カンファレンスで利用者一人ひとりの生活歴や力を全員で協議・把握している。紙芝居の読み聞かせをしてもらったり、4文字熟語のゲームを楽しんでもらったり、作業療法士指導による重量負荷をつけた足上げ体操で筋力の維持向上を図るなど、積極的に楽しみ事、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	四季折々に近隣の景勝地へのドライブを楽しんでもらったり、買い物希望者は月1～2回は、コンビニ、スーパーでのおやつ購入等の支援も行っている。また、全介助の利用者も天気の良い日には必ず日光浴に出て支援が行われている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関、居室共に鍵をかけていない。また、玄関にセンサーを付けているが過信は出来ないので、職員の見守り中心で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回避難訓練を行っている。避難方法、避難場所の確保等は、全職員に理解されている。また、運営推進会議における事業所からの要請で自治会の協力も得られている。	○	日頃から地域の人々の協力を得られるよう働きかけ、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけられるよう、訓練の回数を増やす努力が望まれる。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カンファレンスで全職員が話し合い、食事量、水分量の確保ができるよう一人ひとりの食べる量、水分摂取量を記録している。また、食欲低下や消化能力低下などの利用者には、形態を変えた食事・水分確保の工夫もなされている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔・清掃・整理整頓を心がけ、明るく爽やかな共有空間づくりの一方で、季節の花を飾ったり、利用者の特技を生かした作品を飾るなど季節感、生活感を取り入れている。ホールには畳のコーナーがありその上に置いたソファーに座りテレビを楽しめる。ベランダには朝顔の蔓が支柱に巻きつき、真夏の風物詩が利用者の目を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入口には特別な事情のある方を除いて、木製のしっかりした表札がかけられていて、一人ひとりの好みに合った色、模様の暖簾が掛けられている。また、居室内は、それぞれ高さの違うベッドが入れられたり、ぬいぐるみなどの小物が置かれたり、散歩に出て摘んできた野の花が飾られたりして、個性的な居室になっている。		